

8月4、5日 大分大会特集③

Newspaper In Education

三芳小学校 (日田市)



教育に新聞を

全国大会

教育への新聞活用を探る第21回NIE全国大会大分大会が8月4、5の両日、大分市のホルトホール大分などで開かれる。スローガンは「新聞でわくわく 社会と向き合うNIE」。新聞と出会う幼稚園から、社会とつながる大学まで、発達段階に応じた県内の実践例を報告する。

取り組みの狙い

人の生きざま知って

塩川 美紀教諭

授業をする塩川美紀教諭



新聞記事には人の生きざまが載っている。中学校入学を前にした6年生に、夢を持ち、目標を立てることによって自信が湧き上がり、自分も実践しようとする気持ちを持ってもらおうと巣立ちの授業をした。小島裕治さんの新聞記事は掲載時に見つけたもの。これまでも何度か卒業生の巣立ちの授業で使ったことがあるが、教材として全然古くならない。この記事を通して、簡単には出会うことができないけど、前向きに生きている人がいるということを知ってほしかった。

5年生の時にこのクラスを受け持った時、最初みんなはNIEという言葉も知らず、文字探しなどの新聞遊びからスタートした。2学期には記事を読み、3学期には新聞を読んで自分の考えを持てるようになった。NIEには正解がなく、×を付けられることもない。教師とは違う意見を出してもいい。子どもたちはそれが楽しいと感じているようだ。

記事に生きるヒント



両腕を失った教師の小島さんを紹介する記事で、伝えたいことは何かを考える児童

「皆さんに出会わせたい人がいます」。2月、日田市三芳小学校。卒業間近の6年生の教室で塩川美紀教諭がそう切り出し、1枚の写真を見せた。右足の親指と人さし指でチョークを挟み、笑顔で黒板に文字を書く男性が写っていた。「手が無い」「腕が無い」「靴下がない」と児童。塩川教諭は「小島裕治さんという人です」と、小島さんを紹介する新聞記事を配った。

線を引き、思い読み取る

この記事が伝えたいことを考えた。「無理だと思えること」でもできることがある。「何でも諦めず努力することが大切」「両腕がなくとも何かができる」。児童はそれぞれ記事から受け取ったメッセージを発表。すると「中でも一番言いたかったことは何だろう」と塩川教諭。それは記事の最後に書かれていた。「成功の反対は、失敗ではありません。何もしないという事です」。

塩川教諭は「何もしなければ何も解決しない。じたばたしなさい」ということと解説。「みんなは中学校に進み、その先には高校があり、その先にはお仕事などいろいろなことが待ち受けている。頑張る、へこたれないで、動いて、いろんな人から学べる。新聞からも、友達からも学べる。そこから生きるヒントをもらってくださうことです」。



記事を読んだ児童は「諦めず努力することが必要」など、自分なりの感想をまとめた

リレーエッセー実践から

「TPP、どうなるんかな」。NIEの積み重ねにより、子どもたちから世の中の動きに目を向けた発言が聞かれるようになってきました。しかし、そんな子どもたちも新聞を丸めると、すぐにチャンバラを始めます。子どもたちは新聞で遊ぶことが大好きです。新聞活用というと「小学生に記事の内容を理解させることは難しい」と実践に二の足を踏む人が多いです。

活用法、アイデア次第

平山 立哉



確かに新聞の情報を読み解き、活用するには、それなりの言語技能が要求されます。ですから、まだ新聞に触れたことが少ない子どもたちには、まずは新聞になじむ活動から始めることをお勧めします。



班ごとに新聞の写真を集める寒田小学校の1年生

例えば、家庭の新聞受けに新聞を取りに行く、図工や習字の作品を挟む、湿らせて窓を拭く、丸めてリレーのバトンに使う、新聞紙で工作をする、記事の写真を見て感じたことなどを伝え合う、記事から知っている漢字やオノマトペ、グラフ、概数を探すなど、さまざまな活動が考えられます。そうして記事を読み込む素地を養っていくのです。

児童の感想

保育士の夢へ努力したい

▽原川響希さん(12)
小島さんは失敗してもくじけず何回も努力したところがすごい。将来は保育士になりたいと思っているが、勉強を頑張るようになることが大切だと思った。これから中学生になるが小島さんのことを思い出して、同じように努力したい。



諦めない気持ちを学んだ

▽佐藤颯亮君(12)
小島さんは腕がなくとも足を使って黒板に文字を書いていて驚いた。もし自分が同じように両腕をなくしたら、ずっと家で寝たきりで外に出る気持ちになるから分からない。小島さんから諦めないことを学んだ。今までしなかったことに挑戦したい。

